ハイパフォーマンスタービン「HD-T15」説明書

JB23 後期（5型~10型）用

～取付前に必ず本章をお読みください。～

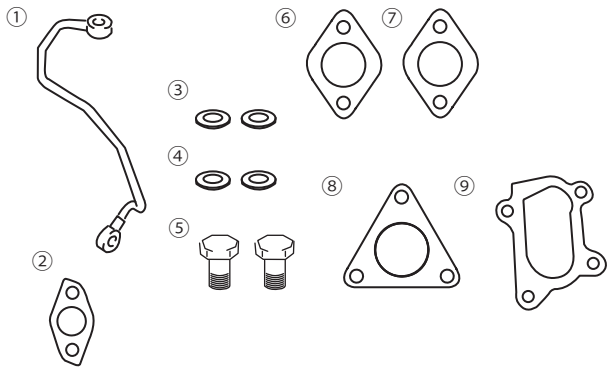
この度は当社製品をお買い上げ頂きまして、誠に有難うございます。本製品を取り付け及び取り扱う上で、いくつかの注意点がございます。安全かつ快適にご使用頂くため、取り付け作業前に必ず本書を熟読し、部品を確認、手順等をご理解頂いた上での作業をお願いいたします。

※ 取り付けに関しては整備工場等で確実に行うようにしてください。※
※取り付けが不完全ですと、重大な事故につながる可能性があり大変危険です。※

■ 作業を行う前に、必ずすべての部品が揃っていることを確認してください。欠品がある場合はお手数ですが下記連絡先までご連絡ください。取り付けをされた跡での返品や、破損交換は出来ませんのでご注意ください。
■ 取り付け後は定期的に各ボルト類が緩んでいないか、また関連部品に異常がないか等をご確認下さい。
■ もし万が一、本製品や取り付け部分に以上を確認した場合はすぐに使用を中止して下さい。
■ 取付作業は、車を安全な場所に駐車し、パーキングブレーキを確実に引いて、車が動かないことを確認してから行ってください。
■ 取付作業中はエンジンを停止し、エンジンキーを取り外しておいて下さい。
■ 不適合な工具を使用しての作業や無理な取り付けは思わぬ怪我の原因となりますのでおやめ下さい。

＜後期用 / 付属品リスト＞

①パイプターボオイルインテーク
(13930-76JA1)
②ガスケットオイルドレーン (13945-70G50)
③ワッシャー (10x15x1.5)…2 枚
④ワッシャー (8.2x14x1)…2 枚
⑤ユニオンボルト…2 本
(8x20 (13948-85560) /10x20-23 (13948-58J50))
⑥ガスケット：インテークエアーパイプ
(13955-56F00)
⑦ガスケット：アウトレットエアーパイプ
(13965-56F00)
⑧ガスケット：エキゾーストマニホールド
(14181-78F50)
⑨ガスケット：TC アウトレットパイプ
(14182-58J50)



＜推奨点検項目＞

1 - 油脂類漏れ / 消費等、確認点検
2 - 冷却水（LLC）漏れ / 消費等、確認点検
3 - EG コンプレッション点検（K6A 基準 12.0kgf/cm2　　限度値 9.0kgf/cm2）
4 - オイルコンプレッション点検
5 - フューエルコンプレッション点検
6 - エアーエレメント /BOX 内ダスト等点検
7 - インタークラーホース亀裂等点検（特にバンド面の両端）
8 - インタークーラー本体クラック圧漏れ点検（取り外してからの点検を推奨）
9 - サクションホース亀裂 / 内部ジャバラ部分異物点検（取り外してからの点検を推奨）
10 - EX マニホールドからの排気漏れ / クラック点検（取り外してからの点検を推奨）
11 - 予備部品の準備（取り外し中にスタットボルトなどが折れやすいので注意）
12 - 浸透剤：ねじ焼け防止ペーストの用意

K-PRODUCTS
http://www.k-products.jp/
株式会社 ケイープロダクツ　〒999-1353 山形県西置賜郡小国町大字兵庫舘 3-5-20
TEL：0238-62-4901　E-mail：jimny@k-products.jp　■店舗営業時間 9:00-18:00

JB23 後期（5型以降）用

取り付け上の注意点

1　ターボチャージャー本体にキズや破損箇所が無いか確認して下さい。

2　ターボ本体のオイルライン入り口に必ず新オイルを一杯になるまで注入し、軽くインペラーを回しながら曲がりや、ひっかかり等が無くスムーズにシャフトが回るか確認して下さい。（無理に回さない事）

※上記に確認事項で 1 つでも問題がある場合作業を中止し、ご連絡ください※

3　オイルパイプは曲がりやすいので、ターボ側のユニオンボルトはかなり緩めで、パイプ自体を固定せずに十分に注意しながら作業してください。オイルリターンホースもマウントブラケット等に干渉しやすいので、無理に作業してしまうとオイルパイプが曲がってしまい、エンジン側のユニオンボルトの位置関係が狂うだけでなく歪んだ状態でボルトを締めてしまうことで、振動等によるクラックが生じやすくなります。オイル漏れの起因を作る事になりますので慎重に作業を進めてください。

4　EX マニホールドのタービン側フランジのボルト 3 本は仮締めの状態にします。次に、オイルパイプのユニオンボルト（タービン上部とエンジン側）を少しずつ仮締めしていきます。その後更に、すべての箇所のボルトを締め込みます。特に、オイルパイプの「ねじれ」「干渉」に注意しながら、オイルパイプにストレスがかからないように本締めします。オイルパイプのガスケットは潰れやすいため、締めすぎに注意が必要です。上記作業が完了後、アウトレット側の 4 箇所のボルトを締め込みます。

JB23 の 1 型以外はターボ本体の固定は無く、EX マニホールド側 3 本アウトレット側 4 本のみの取り付け構成です。特にアウトレット側はテンションをかけすぎるとマニの割れの元になります。
※ボルトには、焼け止め等の使用をオススメします。（180 ～ 280kg/cm）

取り付け後の作動点検確認事項

1　ターボを取り付けし、エンジンを始動させる前にフューエルポンプリレーのカプラーを外して、インジェクターから燃料が出ない状態にしてから数回にわけクランキングし、オイルリターンホースからオイルが回って来たことを確認し再度ポンプリレーを元の状態にしてからエンジンを始動しください。

2　アイドリング状態を 10 分以上 20 分以内行いながらオイルや LLC の漏れ異音等など、異常が無いか確認して下さい。その際に、極端なレーシング等（空ぶかし）は絶対しないで下さい。
異常が無ければ試運転を始めてください。試運転も極端な加速やレーシング（空ぶかし）も避けてください。

3　ブーストの初期設定を 0.8 ～ 0.9kg/cm2 に設定し、4000 回転前後を越えない範囲で 100km 以上慣らし運転をしてから、少しずつ使用回転域を上げてください。極端に回転や加給をかけるとタービンシャフトが焼き付けなど重大な故障や性能低下の起因の元になります。この最初の取り付けや条件が、初期破損に大きく関わってきますので、少しでも異常が感じられる際は走行を中止してください。

4　その後も 500km 位走行してから最大加給設定を行ってください。
1.0 以上の設定される際は排気温度計で管理してください。